

SL で学んだ福祉体験について

社会福祉学部 社会福祉学科 2年 小島 巧

活動先：to ピア

岡本ゼミ

① 自分の成長と気づきについて

私は、3月のバスツアーにてだいこんの花に行き NPO 法人についてすごく興味を持った。バスツアーに行く前までは座学で学ぶ福祉しか知らなかった。実際に福祉現場に行き民家のようなところで福祉サービスが行われていた。民家といっても手すりが連なっていて、スロープなどがあり福祉専用で改造されていた。

バスツアーによって NPO 法人に興味を持ち出したときだったのでサービスラーニングでまた別の NPO 法人について知ることが出来るので楽しみにしていた。私は、特定非営利活動法人 to ピアに行きました。to ピアは、就労支援活動 A 型事業を行っているところである。サービスラーニング初日に利用している方がどんな障害をお持ちなのか、どこに障害があるのかお話ししているだけでは分からなかった。

一緒に仕事をするうちに利用者さんが就労支援で行っている仕事姿を見ているとどこに障害をお持ちか分かった。精神障害や知的障害であった。しかし、利用者さんは仕事に戸惑うことがあまり無かった。そこには職員スタッフにより工夫されていることに気づいた。数字を数えるのが苦手な知的障害者には一気に何十個と数えるのは困難なため、5本で束を作りその束を何個も作り数え間違いのないようにしてあったり、精神障害で人と話したり目を合わせるのが苦手な方は部屋の隅のほうで1人作業をしていたりと、苦手をカバーできるように配慮されていた。

職員スタッフの方は1人1人の出来る仕事、苦手を把握されていて利用者さんに合った業務をさせていた。月の就労状況は一般社会人とほとんど変わらなかった。朝10時までに出勤し15時に退勤、週に4、5回働き給料を貰う。働くことにより生活リズムが出来る。風邪を引いた場合には病院に連れて行き、昼食も職場で出る、利用者がお金を使いすぎないように管理もする。to ピアは働く場所を提供するだけではなく、普段の生活補助までしているということに気づいた。

他に気づいた事とは、障害をお持ちの方とのコミュニケーションの取り方である。サービスラーニングに行く前まではお話し出来るのか不安だった。一緒に仕事をする中でお話しをする機会が増えた。利用者さんは凄く目を見てきて話すので普段の生活以上にちゃんと相手の顔を見て話すことが重要である。何度も話しかけることも必要である。それで名前を覚えてくれたときは嬉しかった。

成長したこととしては NPO 法人、就労支援に興味を持てたことである。この1年間で NPO 法人の種類や数がとても多くあることに驚いた。また今自分が福祉のなかで興味を持っている分野は就労支援である。3年生の実習では就労支援の活動を行っている施設に行く予定である。to ピアの就労支援 A 型は珍しく、大概のところは就労支援 B 型を行っている。実習先では就労支援 B 型を行っている。to ピアでは障害が進行し就労支援 A 型のままでは厳しく B 型に移動される方の送別会があった。仕事をされている状況を見ると確かに職員スタッフが考えた弱点を補う方法での作業は難しく、他の方と比べると簡

単な作業を担当されている。A型からB型に移動する基準は何なのか不思議である。職員スタッフの方は障害が進行しこの状況だと to ピアでは作業を続けることが難しいと言っていた。就労支援の理解を深めるために、今回のサービスラーニングで学んだA型との違いを実習先の現場に行き体験し学びたい。

②活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

課題としては利用者が任せられた同じ業務をずっとやっていることだ。ほかの利用者さんが行っている仕事を体験することによって今まで出来なかったことが出来たりするので他業務をまかせることが出来るようにすることが課題である。また利用者さんに仕事を教えていくことや理解できるように伝えることが難しい。尋ねてきた全てのことにこちらが答えをだしてしまっただけではその方の成長はみられない。自分できちんと解決できるように支援をしていくことが職員スタッフの役割である。

活動を通してみえたこととしては、仕事の業務として昼食づくりがあった。これは to ピアだけのためにつくるものではなく、1階の介護サービスを行っている施設にも作っていた。1階は介護サービスのため料理を作れるような方がいない。1階の介護福祉士の方に聞くと to ピアが作るものは手作りなので食事代が安く、栄養も考えられて作っているため凄く助かっていると言っていた。このサービスでは to ピア側は仕事が増えるし、介護サービスのほうは食事代を安く抑えることができるのでとても良い支援である。

様々な体験を積んで

社会福祉学部 社会福祉学科 2年 高木渉太郎

活動先：to ピア

岡本ゼミ

私はこのゼミに入ってまず、入った班は、障害を持った方が働いている作業所の NPO 法人トピアさんにサービ斯拉ーニングで行かせていただくことになった。チームでジャンケンをした結果、私が負けたのでチームのリーダーを務めることになった。正直初めはあまり絡んだこともないメンバーだったので、上手くやっていけるか、またリーダーは主に向こうの方との連絡役だったので不安しかなかったのが事実である。

3 回目のゼミではトピアさんのスタッフの方が来て下さり、話を聞くことが出来た。話の内容はとても素晴らしいものであると思ったが、その分サービ斯拉ーニングの際自分はその場で上手くやっていけるかという不安が更に積もった。その後チームのメンバーで体験に行くときのプランについて計画をした。最終日はレクの企画をするという事になり、チームでコスト的な面も含めて流しそめんをするということになったので、確認をとるために電話をしたら、落としそめんがいいのではないかという意見を頂き、とてもユニークだと思った。しかしユニークだがそれもまた上手くこなせるのかという不安があったなど、サービ斯拉ーニングの直前まで様々な不安を抱えていた。

そして、夏休みのサービ斯拉ーニングの本番の時にとっても緊張しながら施設に向かった施設に入ると施設の方がとても優しく迎えて下さったのでとても入りやすかった。朝の挨拶として、一人ずつ一分間昨日の出来事を話すコーナーがあり、実際にやってみたら意外と難しかった、後で施設の方に聞いてみると利用者の方の脳の活性化につながるという事で、そんな工夫があるという事にとっても驚いた。施設では、その場のくじで決める掃除の当番などがあり、とても協調性があると思った。

1 日目は、施設が連携している店の飴の商品を売り出すために飴の絵の切り抜きがあったがとても難しかった。またクローバーをタッパに詰めるという作業があったが、中々細かい作業で難しかった。二日目は、車で出かけ剪定作業に向かったが、とても暑いと聞いていたので暑さ対策をしていたが、それを遥かに超えるほど暑く、く倒れてしまうかと思った。剪定作業はとても細かく、木を一本一本と丁寧に切っていくのがとても難しく大変だった。また力のいる作業でとても疲れてしまったが、施設の方は毎日それをこなしているのかという事考えるととてもすごいと感じた。また選定作業をする場所へと向かう際施設の方からたくさんのお話を伺う事ができ、とても充実した時間となった。また施設でのお昼ごはんは向こうの方々に出していただき、とても美味しいごはんを頂くことが出来た。私がうれしかったのは、その施設へ教えに来てくださった書道の先生の指導をサービ斯拉ーニングで来ている私たちもその講義を受けることが出来たことだ。

最終日は落としそめんを企画していたのでそのための準備をしたが、二階からどのように管を通すか、またどのようにそめんをキャッチするかなど色々やり方についてたくさん検討したが、当日はともうまくいき、失敗してもみんなで笑いあえるような形になって上手く成功したのでとても良かったと思う。

また、施設の方で辞められる方がいたので、その人に対するプレゼントを買ったりする

というようなことをしたりしたので、とても手厚くやっていることがうれしかった。

このサービラーニングを通して、最初はとても不安ばかりであったが施設の方は皆とても優しい方ばかりであり、とても馴染みやすく楽しくやれて自分にとってとてもいい経験となった。また、この活動を通して、チームのメンバーとも仲良くなれたことが自分にとってとてもプラスになったと思う。



後期になってチームが変わったのでそこでパワーポイントを発表することになったが、NPO 法人の決算についてまとめたが、なぜ黒字なのかなどについて調べるなどがとても難しかったが、教員の方にサポートして頂き何とか完成することが出来た。今回パワーポイントは難しく反省の点はたくさんあるが、私はこのゼミに入ったことで様々な経験を積むことが出来た。